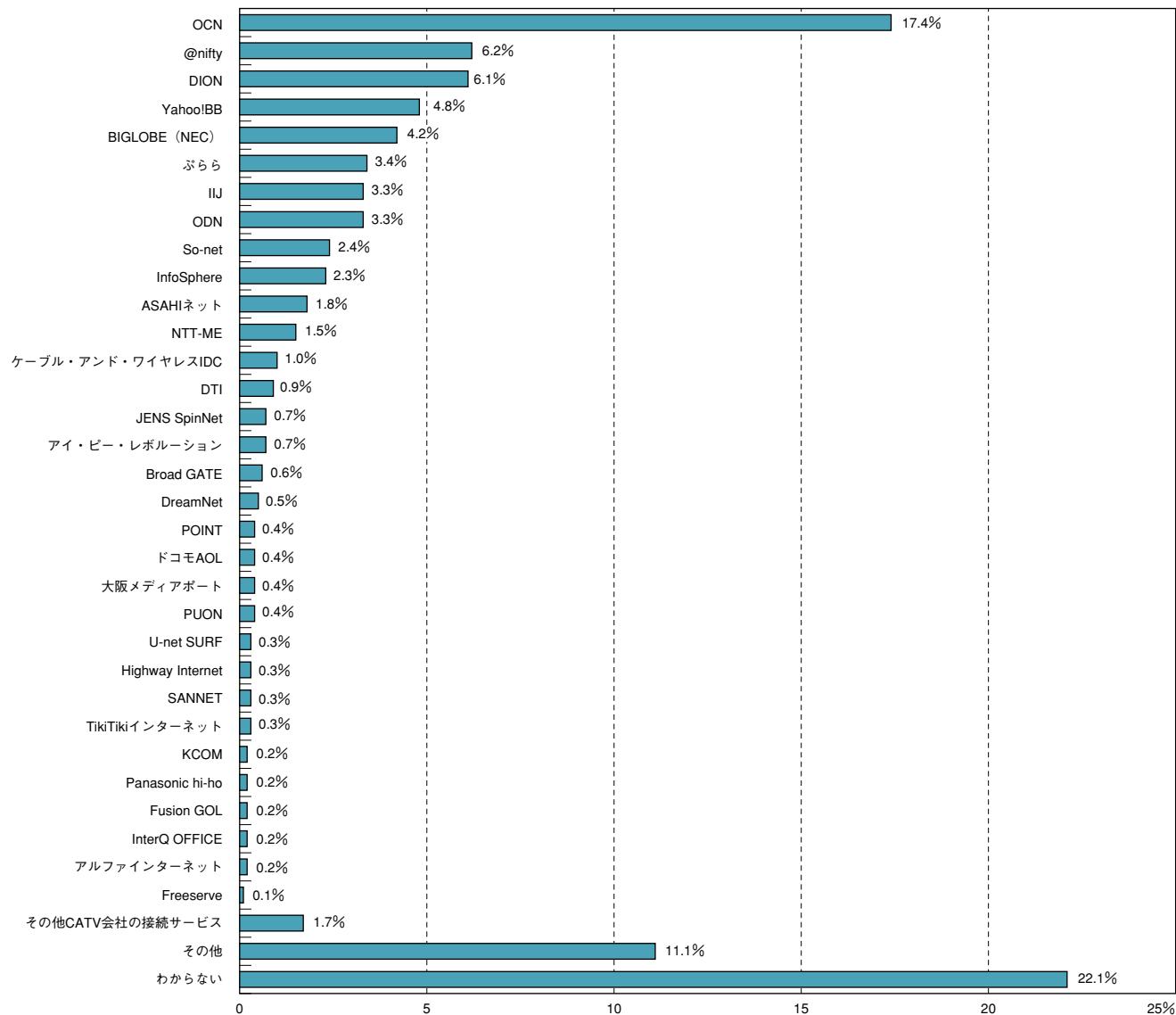


法人向けISP

法人向けISPは依然としてOCNがトップ

資料3-1-8 企業が契約している最も主要なISP N=1,798



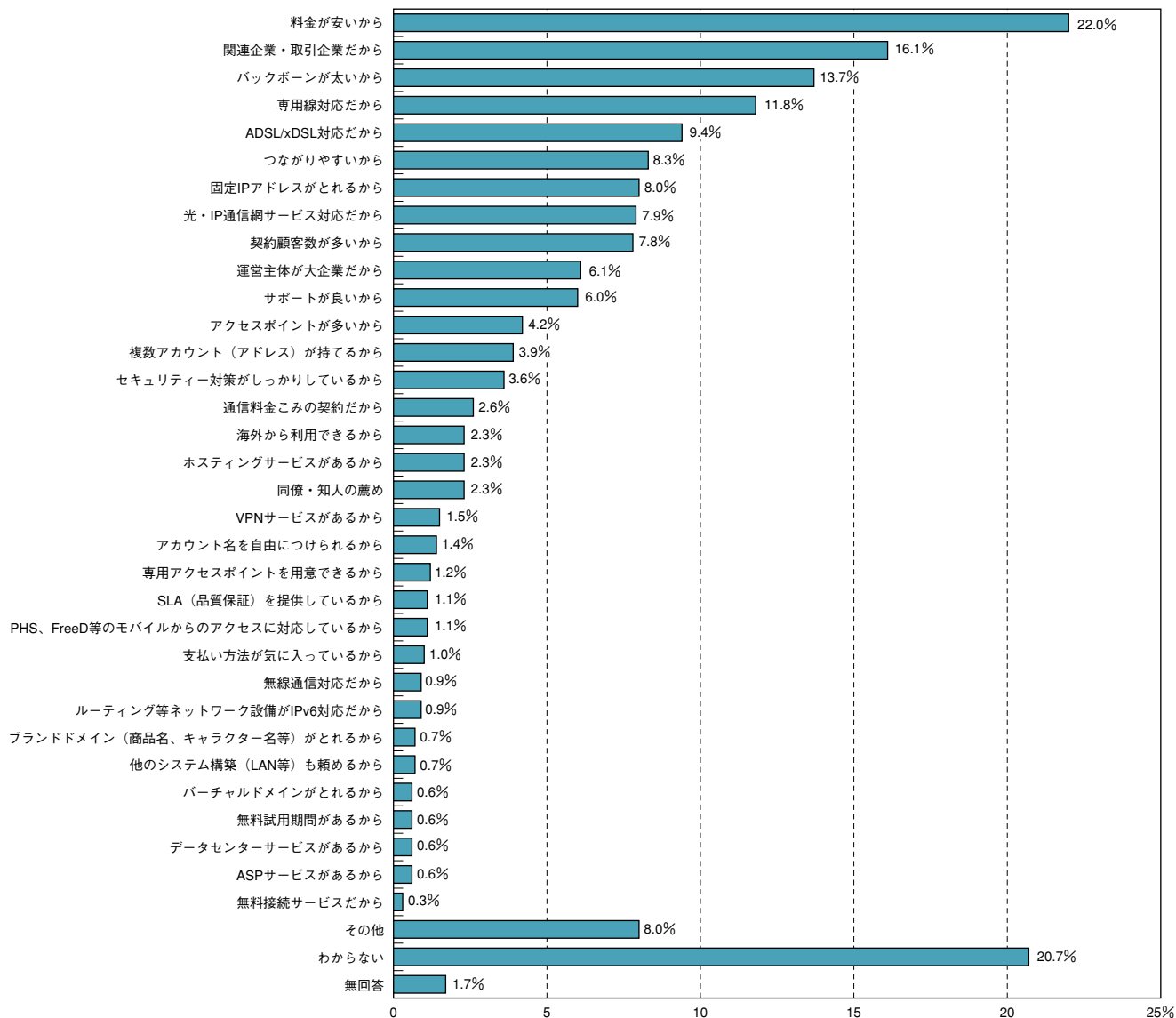
©Access Media /impress,2003

法人向けISPのシェアではOCNが首位を守っているが、2002年版の調査では28.1%だったシェアが今年は17.4%と減少傾向にある。ただし、昨年シェア21.7%で2位だった@niftyが大きくシェアを落としており、OCNと他のISPとの差はむしろ大きくなっている。

法人向けISP

企業でもISP選択の決め手は「安さ」

資料3-1-9 ISPの選択理由 N=1,798



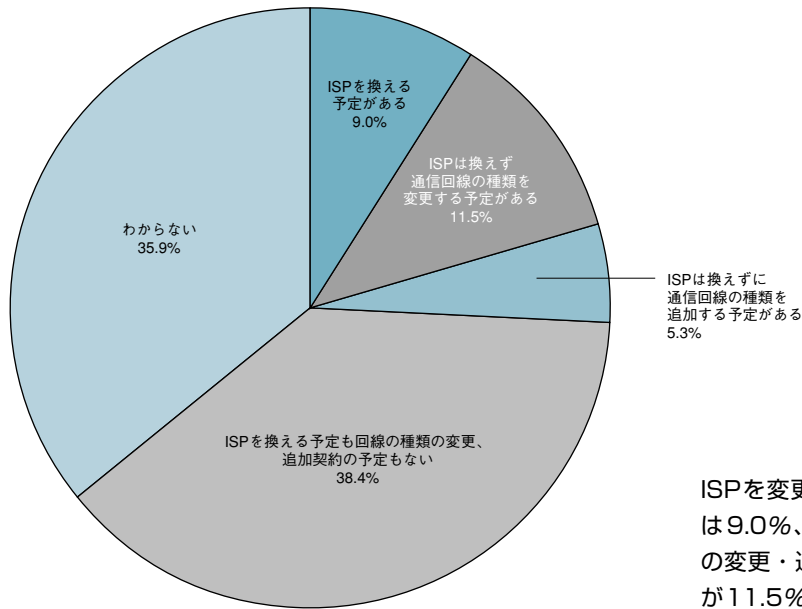
©Access Media /impress,2003

経済状況の反映か、サービス面での差が目立たなくなりつつあるためか、ISP選択基準に「安さ」を挙げる企業が多い。昨年2位だった専用線対応が4位に後退し、専用線の利用が減少基調にあることを裏付けている。

法人向けISP

ISPや回線種別は現状維持の傾向

資料3-1-10 今後1年以内の契約ISPや回線の変更予定 N=1,798

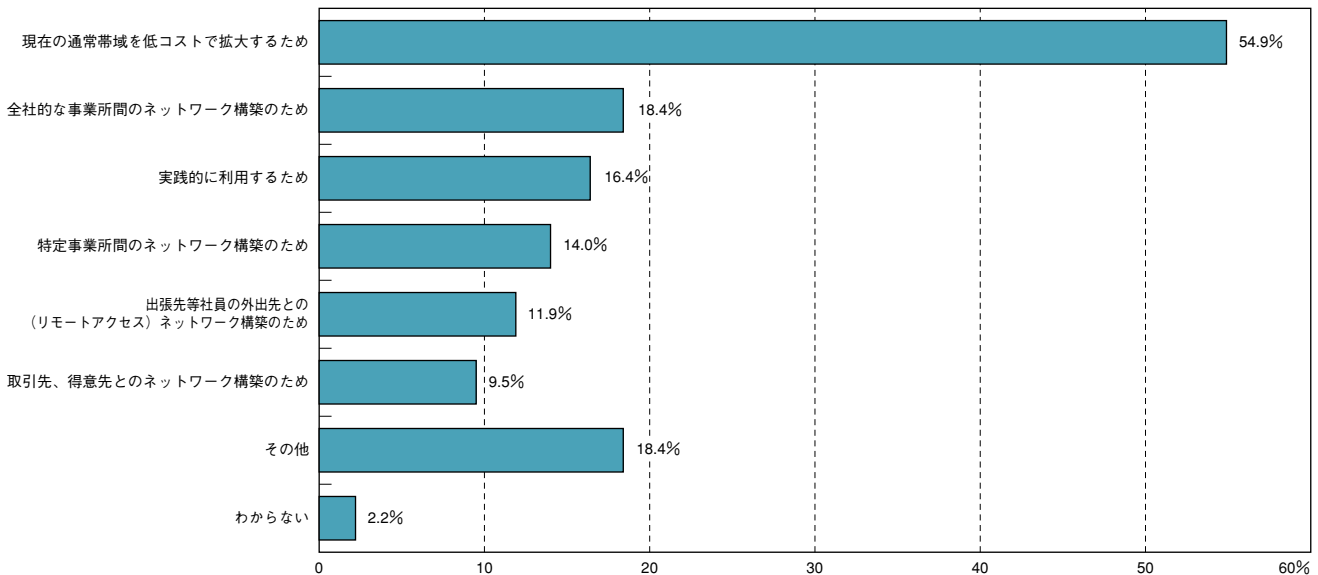


ISPを変更する予定があるという回答は9.0%、ISPは変更せずに回線種別の変更・追加の予定があるという回答が11.5%で、ISPや回線の変更には消極的な姿勢がうかがえる。現状では特に大きな不満がないことの表れだろう。

©Access Media/impress,2003

ISPや回線乗り換えの主目的はコスト圧縮

資料3-1-11 契約ISPおよび回線を変更する理由 N=463



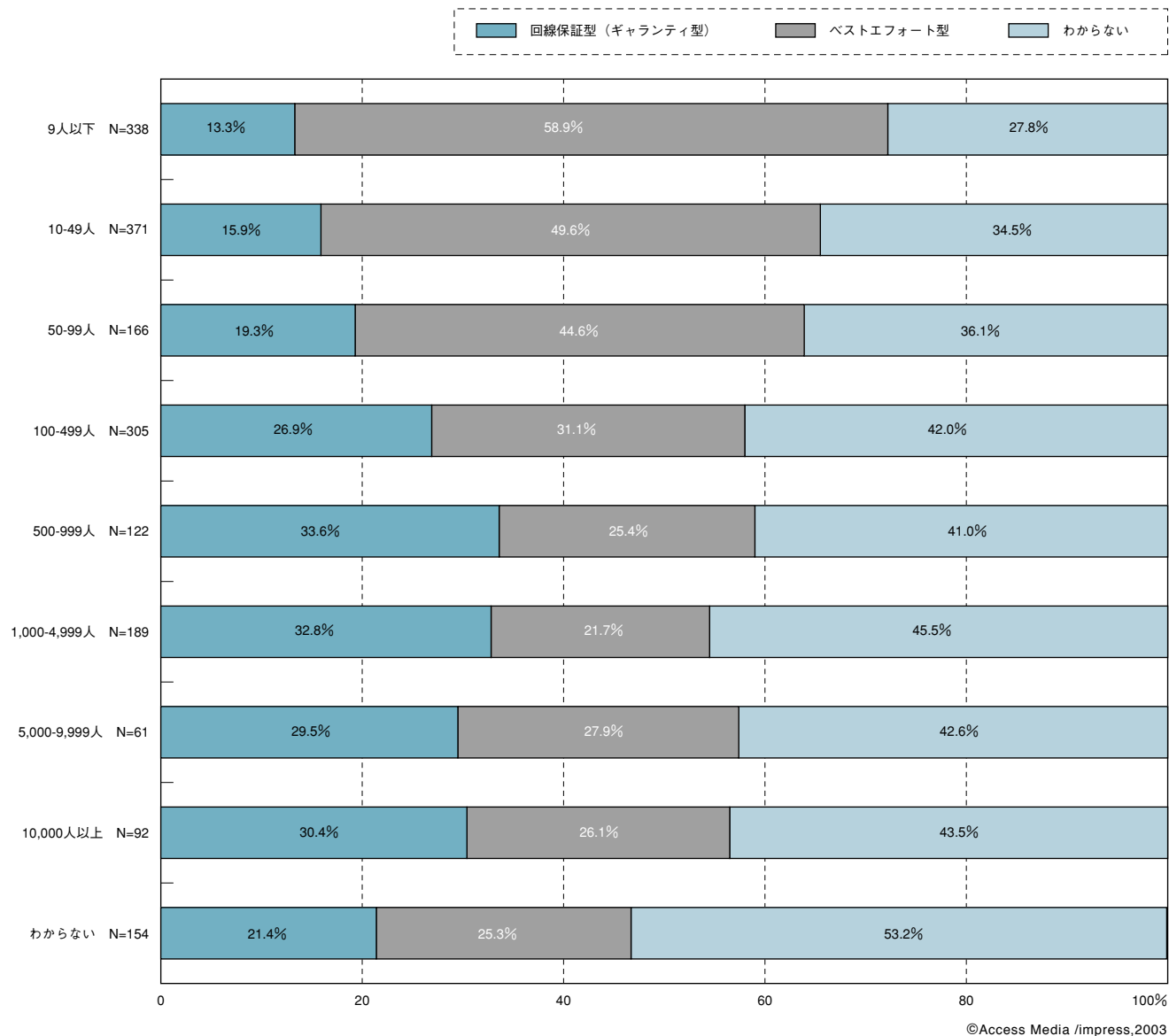
乗り換えの理由として圧倒的多数を占める回答は、より大きな帯域を低価格で確保したい、というものである。ISP選択の基準と合わせ、企業にとっては回線コストを下げるのが最大の関心事になっていることがうかがえる。

©Access Media /impress,2003

法人向けISP

中小企業はベストエフォート型を選択

資料3-1-12 従業員規模別 契約回線の種類 N=1,798

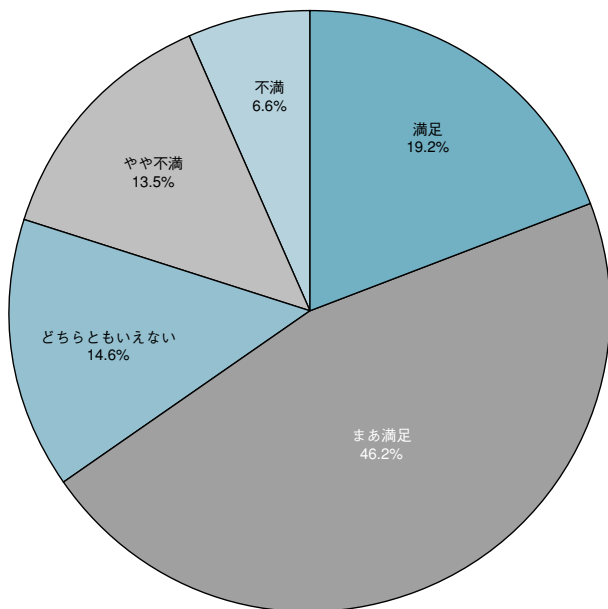


ギランティ型回線の主流と考えられる専用線接続は減少傾向にあるが、大企業ではまだサービスの安定性などへの期待からか、ギランティ型回線を維持している例が多いようである。一方、中小では圧倒的にベストエフォート型を利用している。

法人向けISP

回線品質にはおおむね満足している

資料3-1-13 契約回線におけるスピード・回線品質の満足度 N=1,798

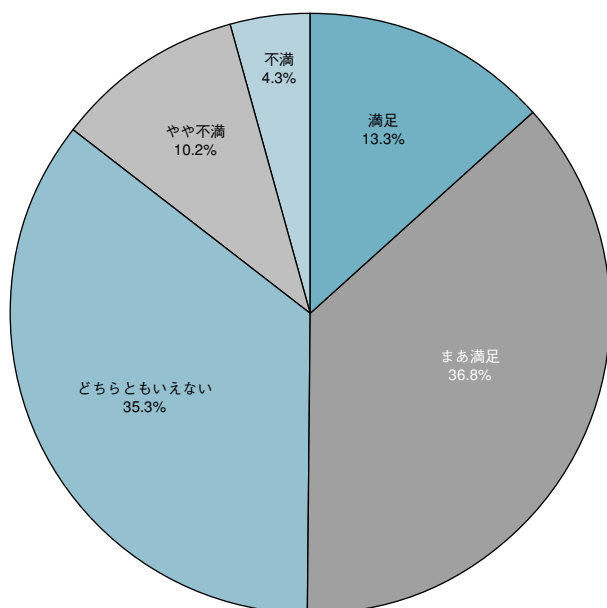


©Access Media/impress,2003

回線品質について不満がない、「満足」「まあ満足」という回答は65.4%を占める。「どちらともいえない」を加えると、全体の80%が不満を感じていないと見られる。回線品質はほぼ期待通りの水準に達していると見てよさそうである。

コスト面での満足度はやや低い

資料3-1-14 契約回線におけるコスト（料金）の満足度 N=1,798



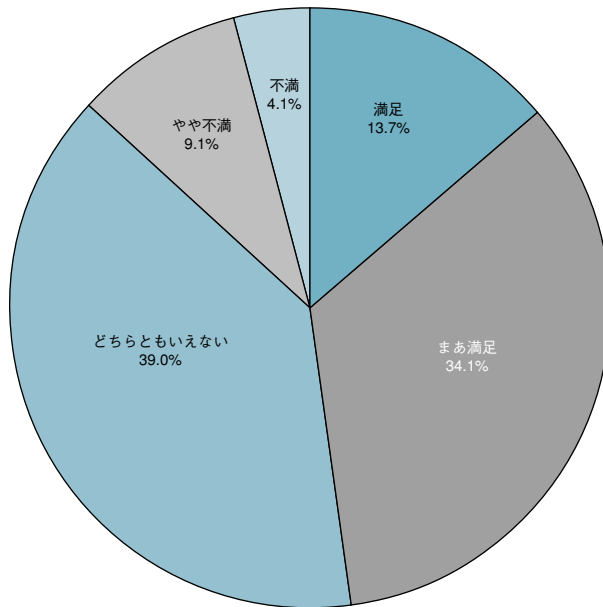
©Access Media/impress,2003

回線コストに関する満足度は、「満足」「まあ満足」で50.1%となり、約半数である。一方、「不満」「やや不満」は14.5%とそう多いわけではなく、どちらともいえないという層の大きさが目立つ。

法人向けISP

サポートにはおおむね好意的な評価

資料3-1-15 契約回線におけるサポートに関する満足度 N=1,798

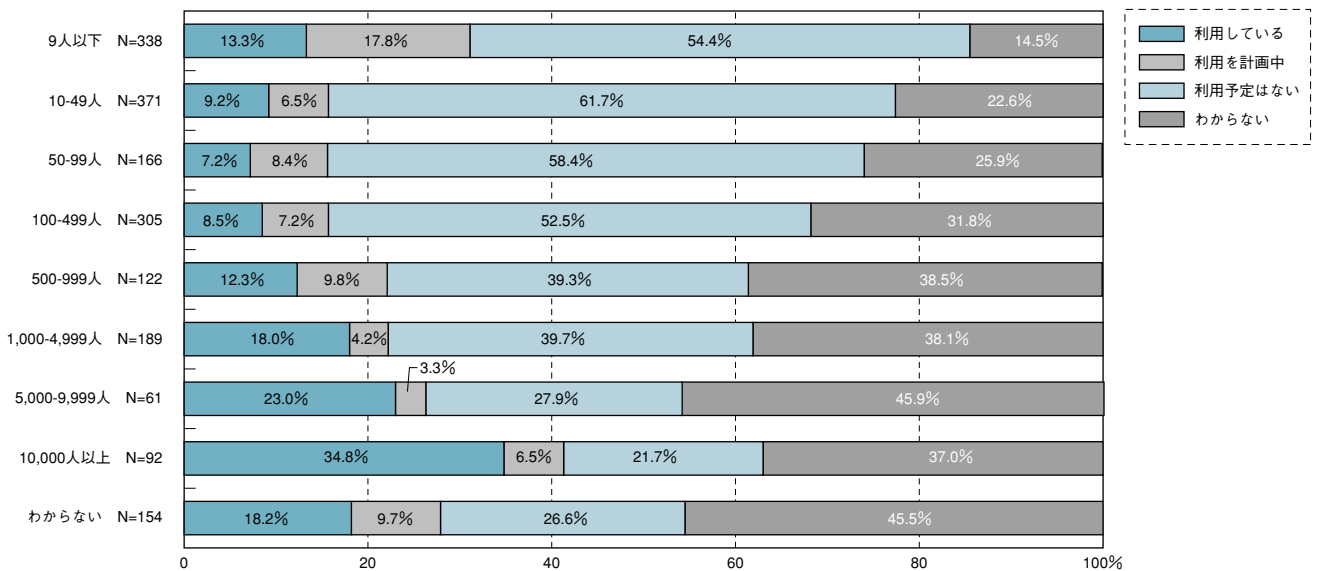


特に明確な傾向は読みとれないが、「満足」と「不満」「やや不満」の合計がほぼ同数で、約3割、残りの7割が「まあ満足」「どちらともいえない」の中間層で、やや好意的といった分布である。特段の不満はないものと判断していいだろう。

©Access Media/impress,2003

CDNは大企業ほど利用している

資料3-1-16 従業員規模別 CDNサービスの利用有無 N=1,798



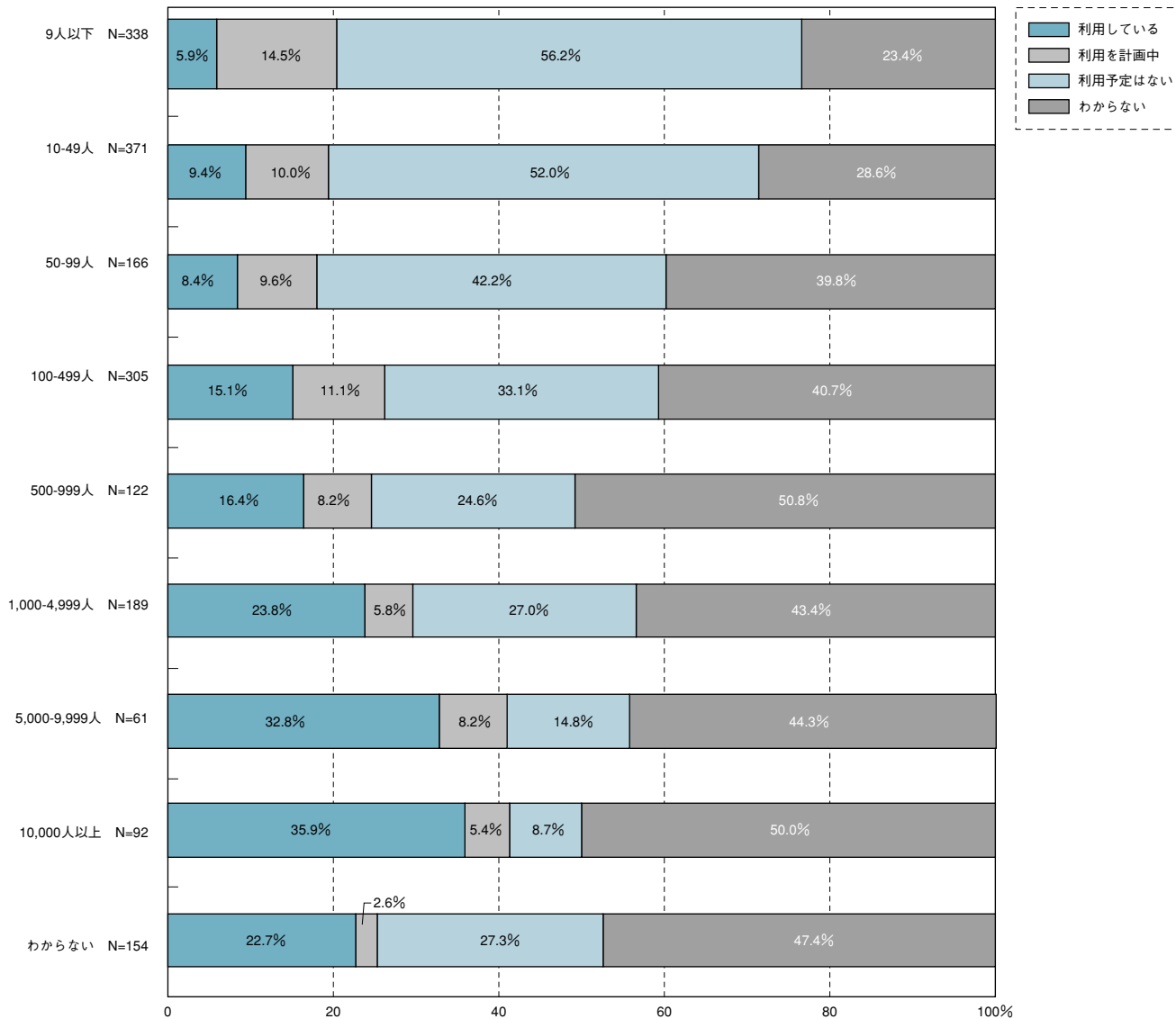
©Access Media /impress,2003

CDN (Contents Delivery Network) は、アクセスが集中するウェブサイトなど帯域を大量に消費するコンテンツの配信を専門に受け持つ。規模が大きくなるにつれて増え、10,000人以上では「利用中」と「利用計画中」を合わせて41.3%。

法人向けISP

SLAの利用も企業規模に比例して増加

資料3-1-17 従業員規模別 SLA（品質保証）サービスの利用有無 N=1,798



©Access Media /impress,2003

サービスの品質基準について契約を結ぶSLA（Service Level Agreement）の利用も、企業規模が大きくなるに従って増加している。10,000人以上の企業では、「利用中」「利用計画中」を合わせて40%超となり、SLAが企業向けに定着してきた状況がうかがえる。



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp